

I 教育目標	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ よく考えて、進んで学習する子 ○ 心豊かで、思いやりのある子 ○ 心身ともにたくましく健康な子

II 経営方針	
目指す学校像	成長を実感できる学校
目指す児童(生徒)像	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に考え、学び、課題解決を図っていく子 ○互いの特性を認め、相手の思いや背景を理解した接し方を図れる子 ○心身ともに健康で、運動に取り組む活動を図れる子
目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○こども基準で考え、その子その子に合った指導で、児童を成長させる教師 ○常に研鑽を続け、授業力、生活指導力、学級経営力のある教師 ○組織の中で互いに協働し、より良いものを提案、推進できる教師
経営理念	<p>どの子も居心地がいい、いて大丈夫だ」と思える環境の整備を土台として以下の4つを柱とし、夢に向かって努力を重ね、成長を実感できる児童を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○こどもを主体とした教育の推進 課題を「自分事」としてとらえ、主体的・対話的で深い学びを実現するために校内研究を通して教師の指導力を高め、どの子も「できた・わかった」が実感できる授業を行う。 ○基礎学力の定着と論理的思考力の向上のための授業の工夫 ICT機器を有効に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを推進することで、基礎学力の定着と論理的思考力の向上を目指す。 ○豊かな心の育成のための道徳教育の充実と様々な方との関わる機会の構築 特別支援学校等との交流や道徳教育の充実を通して、多様性を認め合う児童を育成する。 ○「ともに」育ちあう学校・家庭・地域の連携 地域人材や専門家を活用した体験活動や授業の推進と、地域行事への参加を通して、学校・家庭・地域の三者が協力して児童を育成していく。

III 経営目標		
	重点領域 1	こどもを主体の教育活動の推進
中期経営目標	こどもの意見を生かした教育活動を推進し、課題を「自分事」としてとらえ、主体的に学ぶ力を育成する。	
短期経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ・こども基準の児童理解を推進し、児童が何事においても失敗を恐れず、挑戦できる環境を整える。 ・外部講師や地域の方々を招いた体験活動を通して、夢をもち、努力をすることの大切さを知り、自らも努力できる力を育成する。 ・こどもの意見を生かした行事等の企画・運営を通して、人と関わる力や協働して物事を成し遂げる力を育成する。 	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）

1	こども基準の児童理解と心理的安全性の高い学級経営を行い、落ち着いた雰囲気での学習できる環境を整える。	児童アンケート「学校が楽しい」の肯定的な評価を80%以上とする。 保護者アンケート「こどもは進んで登校している」「こどもは落ち着いて生活している」の肯定的な評価を80%以上とする。
2	各学年年間2回以上の体験活動を行い、様々な方の生き方や努力の仕方を学ぶ機会とし、夢に向かって努力をすることの大切さを気付かせる。	児童アンケート「自分の夢や目標をもっている」の肯定的な評価を80%以上とする。 保護者アンケート「成長を実感できる学校の取り組みに満足している」の肯定的な評価を90%以上とする。
3	行事や学級活動を充実させ、児童がそれぞれの活動に目標を持って取り組み、振り返りの際には「やってよかった。頑張って取り組んだ」と実感できる指導を行う。	児童アンケート「友達や学級のために進んで行動している」の肯定的な評価を80%以上とする。

重点領域2		確かな学力の定着
中期経営目標	基礎学力の定着を図るとともに、こども主体の学習を推進し、論理的思考のできる児童を育成する。	
短期経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を有効に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを推進し、児童が学習の方法や進み方を自ら選択できる授業を推進する。 授業スタイルに特別支援的な視点を踏まえ、児童自らが学びのサイクルを回し、どの子も「わかった・できた」が実感できる授業を推進する。 Challenge Wednesday を効果的に活用し、自らの興味・関心に基づき主体的に課題に取り組む児童を育成する。 	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	課題解決を図る授業展開を行う。 （見通す→考える⇒学び合う⇒振り返る） ICT機器を活用し、思考を可視化したり、多様な対話の形でこどもの思考を深めたりする工夫を行う。	児童アンケート「自分の考えを書いたり、発表したりしている。」保護者アンケート「子供は、自分の考えを持って学習に取り組んでいる。」の肯定的な評価を80%以上とする。
2	めあての明示や振り返りの徹底、個に応じた課題の選択などを通して、どの子もわかりやすい授業を推進する。	児童アンケート「話をよく聞き、めあてをもって学習に取り組んでいる。」保護者アンケート「学校の日々の授業の充実満足している。」の肯定的な評価を80%以上とする。
3	Challenge Wednesday を活用し、自主的な学習の習慣を身に付けさせるとともに、Challenge Wednesday 展示会を行い、他の児童の取り組みを見て、自分の取り組みに生かしたり、さらなる意欲を高めたりする機会とする。	児童アンケート「自主学習に進んで取り組んでいる。」保護者アンケート「こどもは家庭学習や自主学習に進んで取り組んでいる。」の肯定的な評価を80%以上とする。

重点領域3		豊かな心の育成
中期経営目標	様々な人とのかかわりの中で、多様性を認め合い、他者と協調、協働する力を育成する。	
短期経営目標	<ul style="list-style-type: none"> 立地を最大限に生かし、特別支援学校等との交流を充実させ、自己理解、他者理解を深める。また、異学年交流活動や全校遠足を通して、主体性や互いに思いやり、協力する態度を育てる。 道徳教育の充実とともに、「親子で道徳」を通して、様々な考え方に触れ、より良く生きるための基盤となる力を育成する。 	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	6年生は一回以上、2～5年生は2回以上、都立城東特別支援学校、都立大塚ろう学校との交流学習を行う。 月1回のきょうだい班活動ときょうだい班による全校遠足を実施する。	児童アンケート「自分や友達の良さが分かる。」の肯定的な評価を90%以上とする。 保護者アンケート「こどもは、自分を知り、それを理解して活動している」の肯定的な評価を90%以上とする。

2	<p>道徳授業において、いじめに関する授業を年間3回以上行う。また、年3回の「親子で道徳」を通して、家庭と連携して思いやりの心を育てる。こどもたちが進んであいさつができるようにする。</p> <p>児童の小さな SOS を見逃さず、迅速に組織で対応する体制を構築する。</p>	<p>児童アンケート「自分からすすんであいさつをしている」「いじめをしない、させない」を心がけ、相手の気持ちを考えて思いやるのある行動をしている」の肯定的な評価を90%以上とする。</p> <p>保護者アンケート「こどもはいじめはいけないことだと理解し、相手の気持ちを考えて行動している」「親子で道徳」など学校の豊かな心の育成の取り組みに満足している。」の肯定的な評価を90%以上とする。</p>
---	--	--

重点領域4		「ともに」育ちあう学校・家庭・地域の連携
中期経営目標	コミュニティ・スクールであることを生かし、地域学校協働本部と連携し、地域人材や専門家を活用した授業や体験活動を行い、地域・家庭と連携して教育を推進する。	
短期経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用した茶道や生け花など伝統文化体験やおはなしの森の活動を通して、地域とともに児童を育てていく。 ・地域行事への参加を通して、地域の一員であるという意識を育む。 	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	学校協働本部の活動などを通して、地域の方や専門家など外部人材を活用した取り組みを推進する。	保護者アンケート「学校は、地域や外部機関を活用した授業を取り入れている。」の肯定的な評価を80%以上とする。
2	クリーン作戦や大島フェスティバルへの参加を通し、地域の人とともにより良い街にするために自分たちが役に立っていることを意識させる。	児童アンケート「地域のお祭りや行事に進んで参加している。」の肯定的な評価を80%以上とする。
3	学校、学年便りの発行や各学年月2回以上のHPの更新を通して、学校の教育活動の理解を進める。 学校運営協議会や学校公開や行事のアンケート、学校評価アンケートなどで保護者や地域の意見を聞き、教育活動をアップデートする。	保護者アンケート「学校は積極的に情報を発信している。」「学校は、保護者へお子さんのことを連絡している。」の肯定的な評価を80%以上とする。